

「昔も今も生徒主体の校風を誇りに！」

2018年7月17日（火）

2年後に120周年を迎えるにあたり、時間を見つけて本校の歴史を振り返っています。その中で、長く生徒会新聞のタイトルや、合宿所の名前等に使われている「恵幸」について、いつ頃からどんな理由で使われ始めたのかを調べたところ、八十周年記念誌の中に掲載されていました。



※ 恵幸園

昭和初年頃、構内に憩所のない殺風景な学校なので礼法室前に土盛り、熊笹や多くの樹木を中館より生徒が運んで植林し庭園を作った。園名を生徒より募集し、いくつかの名案が応募され、その中から選ばれたのが恵幸園である。この恵幸園は特別教室建設後、昭和55年4月に特別教室西側周辺を中心とする広場に移転した。

なお、この「恵幸」の名称は、新制高校になってから学校新聞（恵幸）、文化祭（恵幸祭）、合宿所（恵幸会館）等の名称にも採用された。



『昭和初年頃、構内に憩所のない殺風景な学校なので礼法室前に土盛り、熊笹や多くの樹木を中庭より生徒が運んで植林し庭園を作った。園名を生徒より募集しその中から選ばれたのが「恵幸園」である。—中略—なお、この「恵幸」の名称は、新制高校になってから学校新聞・文化祭・合宿所等の名称にも採用された。』

創立80周年記念誌より

ここで注目すべきは、「恵幸」が生徒より募集しその中から選ばれたということと、88年たっても受け継がれていることです。

そして、現在の本校のスローガン

「My New Story 自らが創り出す未来」

も生徒より募集し選ばれたものであります。

まさに長い歴史を重ねてなお、生徒が主体である本校の精神は受け継がれていると言えるのです。



「恵幸園」は何度かの移転を繰り返し、現在は「恵幸会館」の玄関横に移転してあります。当時からは格段に狭くなってしまいましたが、生徒主体の本校の校風の象徴でありますので、誇りを持って感慨深く見てくれることを願っています。